

問題は、英文読解問題と英語での表現力をみる問題から構成されている。読解問題では、的確に英文の内容を把握できるかをみている。その上で、長文問題では、本文の内容を英語で簡潔に説明できるか、自分の意見を英語で論理的に展開できるか、をみている。

なお、本文の一部に文法的に正しくない表現もあるが、原文を尊重し手を加えず使用した。

出題意図

シティズンシップ教育に関する英文記事を題材に、英文の内容を正確に読み解いた上で、それを英語で簡潔に説明する力、さらに自分の主張を英語で論理的に表現する力をみている。イギリスにおける政治教育の必要性に関する英文記事だが、日本でも投票率の低さや政治に対する関心の低さなど、共通の問題が生じている。国際教育学科の受験生には国際的な広い視野だけでなく、問題の本質を深く掘り下げて捉える力も求められる。

評価のポイント（長文問題）

問6

筆者の主張を正確に読み取り、それを英語で簡潔に表現する力をみている。イギリスにおけるシティズンシップ教育の課題とその原因についての的確に要点をまとめた。

問7

日本における政治教育のあり方について、説得力のある根拠や具体例を示しながら、自分の主張を英語で論理的に説明できるかをみた。同時に、文法上のミスやスペルミスなどなく、適切な英文を書く力も求められている。

答案の傾向

問 1

正答率は低かった。基本的な理解（語彙・読解）ができていない受験生が多かった。

問 2

正答率は低かった。基本的な理解（語彙・読解）ができていない受験生が多かった。

問 3

文意に添う回答には部分点を与えたが、正答率は低かった。

問 4

なぜ教員養成カリキュラムを修正すべきなのかを端的にまとめて説明する解答が少なかった。

問 5

比較的よくできていた。

問 6

本文を読みとって、解答できていた受験生が比較的多かった。

問 7

概ね質問の意図はよく理解できており、主張と理由、あるいは主張と具体例は書けていたが、「若者は政治に関心がないから、関心を持てるようにすべき」という意見よりも深みのある回答は多くなかった。また、品詞の区別が出来なかつたり、英語の構文が正確でない文章が多く見られた。とりわけ、平易な単語のスペルが間違っている回答も散見され、文法や単語の選択なども含めて基礎的な英語の習得レベルが点差を大きく開いた。